

10月定例記者会見の概要

1. 日時 平成30年10月1日(月) 9時30分～10時15分

2. 場所 本庁舎3階 第一会議室

3. 出席者 <報道機関>

- ①朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ②河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ③共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ④毎日新聞社南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑤福島民報社南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑥福島民友新聞社相双支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑦みなみそうまチャンネル

計 7 社

< 市側 >

- ①市長 ②松浦副市長 ③教育長
- ④総務部長 ⑤復興企画部長 ⑥市民生活部長
- ⑦健康福祉部長 ⑧健康福祉部理事 ⑨経済部長 ⑩建設部長
- ⑪総合病院事務部長 ⑫小高病院事務部長
- ⑬小高区役所長 ⑭鹿島区役所長 ⑮教育委員会事務局長

計 15人

(司会進行) 秘書課長
(会議記録) 秘書課広報係

【市政報告】

皆さんおはようございます。

市政報告に先立ちまして、9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、お亡くなりになられた方々へ謹んで哀悼の意を表すとともに、被災者の皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災地の復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

大型で非常に強い台風24号は、30日(日)以降、スピードを上げて日本列島を縦断しました。本市では、台風に対し警戒を強め、各関係部署においては現在、台風被害の情報収集に努めています。

なお、昨日4ヶ所の先行避難所を開設しました。さらに、現時点での情報では、道路への倒木が数件で、大きな被害は報告されていません。

なお、本市では、「洪水ハザードマップ」を広報みなみそうま9月1日号に別冊と

して折り込んでいたところです。今後も、いつ起こるか分からない災害に対し、意識を高めていただければと思います。

9月5日に開会した第3回南相馬市議会定例会は、先週金曜日に閉会となりました。今議会定例会においては「南相馬市小高区復興拠点施設条例制定について」をはじめ、追加議案を含む議案35件、報告3件について可決いただきました。

前回の記者会見において、質問をいただいた「みらい育成修学資金条例」についてもご承知の通り可決いただいたところです。

また、6月議決をいただいた在宅保育支援金についても、10月から上半期分の支援金の交付が始まります。

教育・子育て環境の充実に向けて、さらには「100年のまちづくり」に向けた施策の一つひとつ取り組んでまいりたいと考えています。

なお、在宅保育支援金については、まだ申請をされていない方についても、10月以降も申請を受け付けることとしております。

多様な子育てを支援したいとの思いから創設した制度ですので、是非活用いただきたいと思っております。

さらに、定例会最終日に追加提案した平成30年度南相馬市一般会計補正予算については、8月に国の準備段階調査採択を受けた（仮称）小高スマートインターチェンジについて、早期の新規事業化、整備計画決定、連結許可に向けた実施計画書作成に必要な予算を計上したものです。

9月25日には、国の主催によって第1回準備会が開催されたところであり、市では、国の新規事業化の早期採択を見据えて、引き続き努力してまいります。

現在策定中の南相馬市復興総合計画 後期計画にも小高スマートインターの整備を見据えた施策を盛り込みたいと考えています。

市議会議員の皆さんにおいては、今定例会が任期最後の議会となりました。

これまで本市の復興のために尽くされた功績と労苦に対し、心から敬意を表します。

さて、先日ご案内しましたが、市内初となるJGAPの個別認証を、

- ・株式会社美野里ファーム（原町区上北高平）と、
- ・株式会社ひばり菜園（鹿島区南海老）

の2つの農業者が、9月10日付けで取得されました。

先週には、認証取得の報告のため市役所を訪問していただいたところです。

県では、東京電力福島第一原発事故の風評払拭に向けてGAP認証の取得を推進しています。

そういった中で、市内初となる個別認証の取得となりましたので、今後は市内農業者のGAP認証取得の先導役として、更なる向上を目指していただきたいと思います。

10月5日（金）に実施される第1回南相馬市施設めぐりは、震災後初の取り組みとなります。市内の公共施設等の見学を通じて、復興状況への理解を深めていただくとともに、参加者からの意見・要望を今後の施設運営や、施策等に生かすことを目的として実施いたします。当初の定員は、20人程度としておりましたが、

結果として29人の応募をいただき実施することとなりました。

なお、第2回施設めぐりは、11月2日（金）に実施予定であり、本日から申し込みを受け付けています。

震災からの復旧・復興に伴い、市内では多くの施設が整備されました。参加される皆様には、福島ロボットテストフィールドや、沿岸部再生可能エネルギー基地の見学を通じて、さらに市政への理解を深めていただければ幸いです。

終りに、11月4日（日）には各所で周知しているとおおり、第6回目となる南相馬市鎮魂復興市民植樹祭を、鹿島区北海老地内で開催します。今回は、県による第1回ふくしま植樹祭も同時開催となります。県と協力しあいながら、万全の体勢を整えているところです。10月20日（土）まで参加申し込みを受け付けています。たくさんの方の参加者の協力をいただくことで、植樹祭を成功裏に終わることができる事を望みます。

私からの報告は以上です。各部長による報告のあと、皆さんからのご質問をお受けいたします。

【各部からの報告】

◆総務部

- ・第1回南相馬市施設めぐりの実施について

◆復興企画部

- ・南相馬市総合防災訓練の実施について

◆市民生活部

- ・第3回南相馬市長杯パークゴルフ大会の開催について

◆経済部

- ・南相馬市雇用対策協定の締結について
- ・マチ・ヒト・シゴトの結び場 NARU（なる）の開所式について
- ・北泉海岸ライブカメラのリニューアル再開について
- ・第71回 相馬野馬追復興秋季競馬大会の開催について
- ・南相馬市交流自治体フェア 2018in あきいちの開催について

◆小高区役所

- ・小高区復興拠点施設の愛称決定について
- ・おだか月あかりコンサートの開催について
- ・小高区文化祭の開催について

◆鹿島区役所

- ・かしま区産業祭の開催について

【質疑応答】

質問1：

北泉海岸ライブカメラについてですが、どの地点に何台設置されるのでしょうか。また、カメラはどちらの方角を向いているのでしょうか。

回答1：経済部長

海岸に1基設置されます。カメラの方角は海側で、30秒間カメラ操作の優先権を持つことによって、180度近くカメラの方角を変えることができるようになっています。

質問2：

小高区復興拠点施設の愛称決定について、発案者等について発表はないのでしょうか。

回答2：小高区役所長

最優秀作品は、市内在住の方です。優秀作品のうち1点は、市内在住の方。もう1点は東京都在住の方です。

質問3：

北泉海岸ライブカメラに関連して、資料には、周辺の設備も整備されてきたと記載がありますが、具体的にどういった施設を指しているのか教えてください。また、ライブカメラのサイトへの行き方や、操作について詳しく教えてください。

回答3：建設部長

北泉海浜公園の整備状況について、高台のエリアについては、長い滑り台をはじめとした遊具施設がありまして、その他に広場、トイレがあります。階段すぐ脇については、緑地広場等の芝を養生しているところです。その他駐車場・トイレを整備しています。

回答3：経済部長

ライブカメラのサイトについては、市のホームページから入っていただき、操作することが出来るようになっています。

問4：

来年は、北泉海水浴場の再開を予定していますか。ライブカメラの再開が海水浴場の再開と繋がるものはありますか。

回答4：経済部長

海開きは、平成31年度夏を予定しています。詳細については今後、観光協会や関係機関と協議しながら詰めていきます。ライブカメラの再開は、どちらかと言えばサーファー向けのサービスです。震災前も北泉海岸ライブカメラには相当数のアクセスがあり、一日も早い再開の要望があり整備したものです。

問5：

先日庁内システムがダウンした問題について、再発防止策があれば教えてください。

回答5：総務部長

今回のシステムダウンの原因は、庁内配電盤のヒューズの経年劣化でした。11月に全てのヒューズの点検を行い、劣化が確認されれば、交換する予定です。

合わせて、今後は無停電電源装置の導入なども検討したいと考えています。

質問6：

小高区復興拠点施設の愛称決定について、最優秀賞となった小高交流センターの選考理由について教えてください。

回答6：小高区役所長

小高区長会や小高産業技術高校の生徒など13人で構成する愛称選考委員会において、それぞれの委員から1位から3位まで選考していただき、集計した結果「小高交流センター」が最優秀となったものです。

質問7：

質問6に関連して、優秀賞となったラシクルおだかのラシクルとはどういった意味があるのでしょうか。

回答7：小高区役所長

ラシクルの「ラシク」には、あなたらしく、わたしらしく、小高らしくといった思いが込められ、そこに「来る」を組み合わせたとのことです。

質問8：

市総合防災訓練について、北海道胆振東部地震を初め、他県で起きた災害で課題となった事象を取り込んだ訓練などは実施されますか。

回答8：復興企画部長

他県の災害を参考にした訓練はありませんが、東日本大震災において課題となった、身近な地域の避難動向の確認訓練など、これまでできなかったことを、仕組みを再構築して実施したいと考えています。さらに、震災以降に居住された方にも参加いただき、地域コミュニティの中の支え合いを確認できるような訓練を実施したいと考えています。

防災訓練は、全国各地で盛んに行われています。今後、先進事例などを取り入れながら、訓練を実施していきたいと考えます。

質問9：

市雇用対策協定の締結について、協定書の第2条に、今後協議していく事業計画を毎年定め、運営協議会を設置するとありますが、そのスケジュール感について教えてください。

回答9：経済部長

スケジュール感についてですが、事業計画の策定は、協議が至っていません。出来るだけ早い時期にハローワークと協議しながら進めて参りたいと考えています。

(補足：経済部次長)

運営協議会は、協定締結後に開催します。

質問10：

ふるさと納税の関係で、現在の税制ではふるさと納税は公平ではないという指摘がある一方、法人所得税の仕組みも必ずしも公平ではないと私は考えます。そういったことに関する市長の所感をお聞かせください。

回答10：市長

税は人や事業所の集まるところに課税される仕組みです。そういった意味で、現状の税制は地方に住む我々にとって、厳しいものとなっています。

この地域は、人材を輩出する地域で、担税力が出る時期には都会で働いています。そういった中での一つの制度としてふるさと納税は、今後も積極的に活用したいと

考えています。

なお、市外品の取り扱いについては、支援をいただいた自治体や、交流自治体の産品を活用できないか考えているところです。市内の産品のみだと、農業や漁業が震災前の状況に戻っていない状態ですので、そういった部分を補完するため支援をいただいた自治体と連携したいという思いがあります。そういった思いを国に繋げながら、救い合う制度にしていきたいと考えます。

一方で、市独自の産品も増えています。現在、商品ラインナップの見直し作業を進めているところです。

おわり